

令和7年度 都城市立西中学校 第【4】回学校運営協議会報告書

日 時	令和7年 1月15日(木) 18時30分～20時00分	
場 所	西中学校 会議室	
参 加 者	委 員	赤塚隆志、森山和江、柏木健一郎、川崎和也、下原政広、濱畑愛、小山田誠、森山数也
	事務局	三浦徹也、衛藤卓哉、横山健二
	その他	
会 次 第	1 開会のことば 2 都城市民憲章朗読 3 学校運営協議会会長あいさつ 4 学校長あいさつ 5 学校の現状と課題(説明)	6 学校評価の分析・考察 7 意見交換 8 支援ボランティア等の提案 9 閉会のことば
協 議 内 容	<p>1 学校の現状と課題(学校評価の分析・考察含む)</p> <p>○ 本校の課題として、基礎学力の未定着、不登校、職員業務過多(働き方改革)があったが、昨年度よりは好転している。</p> <p>→配慮の必要な生徒への対応の組織化、働き方改革、教育DX、時間外勤務の削減(これまでより、ペーパーレス化、勤務時間削減、会議等の精選、設定のあり方が改善)</p> <p>→不登校傾向の生徒へのサポートの一助として、スプリング教室や青空ラボ以外にもSSR(さくらサポートルーム)の運営の地域人材への協力依頼、都原児童館図書館の活用などさらに柔軟な受け入れ態勢を拡充していく必要がある。</p> <p>○ 特色ある取組として、全職員での特別支援学級の教科指導(インクルーシブ教育推進)、部活動改革(外部指導者配置、保護者会見守りで実施可)、さくら咲くタイム(自主学習の時間)、オープンスクールデイ(地域の見守り、学校運営への助言)、スポーツゴミ拾い大会(西小とのコラボレーション)、ごみゼロ運動(学校ボランティアの広がり、更に地域へ)、今年度も、西中生徒会与都城西高校生徒会の中高連携などを行った。</p> <p>○ 人間関係に悩む生徒も一部あり、この問題に対する未然防止(相談活動、ピアサポ活動等)の対応、実際にトラブル等が起きた場合の組織的な対応のあり方を充実させる必要がある。また、道徳教育の充実も課題であると捉えている。</p> <p>○ 家庭学習の充実を求める保護者からの声もあり、ICTを活用した個別最適な課題の提供のあり方について工夫が必要である。AIドリル(キュービナ)の学校全体の取組の活性化も課題であると捉えている。現在、学習指導部、ICT担当を中心に取組を開始しはじめた。</p> <p>○ 今3学期も含め、次年度は新校時程の試行期間、45分授業の増設(働き方改革)、行事の精選などに関して改革を進めていく必要がある。</p> <p>2 家庭学習、授業改革、職員の働き方改革についての協議(運営協議会委員からの意見等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・委員より、家庭での指導のあり方・地域への啓発・さらなる情報発信の重要性の提言 ・基礎学力を定着させるための課題のあり方(学習習慣の定着) <ul style="list-style-type: none"> →一律の課題ではなく、個別最適な課題提示(AI・ICTの活用) →個別最適な授業デザインを進めていく上で、多様性の包摂の土台として、学習規律の徹底等をしっかり行っていく必要がある。 ・学校長より、市学校教育ビジョンに照らし合わせ、①子どもが主役の授業、②非認知能力の向上、③学校(生徒・職員)のウェルビーイングの向上を目指し、45分授業+短縮による約30分のモジュール学習のあり方をテーマにアイデアを出し、今後、市教育員会に相談していき、指導を仰ぐ方向であることを説明し、委員からも意見聴取した。 	
そ の 他	<p>○ 放課後、休日等の地域での中学生の様子に関する情報交換(公民館長さんの情報含む)</p> <p>○ 朝の登校見守り(地域・警察・保護者の見守り)に効果がある</p> <p>→運営委員より、下校時間の対策、協力依頼等はできないかとの話題が出た。</p>	